

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1176100343		
法人名	株式会社 ウェルフェアクリエイション		
事業所名	ソレアド幸手		
所在地	埼玉県幸手市幸手3799-8		
自己評価作成日	令和5年9月27日	評価結果市町村受理日	令和6年2月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター		
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号		
訪問調査日	令和5年11月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

事業所理念を毎朝朝礼で唱和し、入居者様の主体性を尊重した支援が出来るよう取り組みを行っています。日中の人員を増やせる体制作りにも力を入れる様努めています。毎月の施設内の研修をして職員のレベルを上げるよう取り組みしています。
ホームの理念の実践は、入居者様本位の自立を目指した日常生活を支援することにあり、可能な限りお手伝いをして頂き、入居者様が生き生きとした表情が見られるようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

・「ソレアド」とは、スペイン語で「陽の当たる場所」その言葉通り、人生の充実期を迎えるご高齢者の方に、陽の当たる場所で明るく過ごしていただきたい、との想いを込めました。
・利用者の主体性を尊重し、笑顔のある暮らしと健康の源である食を大切にケアサービスが提供され、その人らしく明るく、元気に過ごされるよう支援に取り組まれている。また、手作りされた家庭的な美味しい温かい食事が提供されている。
・運営推進会議では、事業所から利用者の暮らしぶりや活動報告のほか、意見やアドバイス、地域の情報提供を頂くなど、幅広い内容での意見交換が行われ、有意義な会議運営をされている。
・目標達成計画の達成状況については、定期訓練では日中及び夜間帯での火災発生を想定し、初期消火、通報、避難誘導訓練に取り組まれている。また、水害時対策としての避難対処方法に取り組まれるなど、体制整備に努められていることから、目標達成への取り組みが伺える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている	理念や行動指針を玄関やフロアに掲示し、且つ申し送り時に唱和を行い、職員一人一人が意識しながらサービスの提供が出来るよう努めています。	「ご利用者様に対し目配り、気配り、思いやりと常に要望に応え、ご利用者様が快適で安心できる介護を目指し行っております」の行動指針に基づき、利用者がその人らしく、笑顔で健やかに過ごされるよう支援に取り組まれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染症によりあまり出来ていないが、年始に氏神様の神社に初詣に出かけ、宮司さんや地域の方と短時間ですが交流がありました。	散歩など外出の際には、ご近所の方と挨拶を交わされたり、自治会加入や地域資源の活用など、利用者が地域とつながりながら暮らせるよう基盤づくりに努められている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場で近況の報告をし、症状の説明や支援内容をお伝えし、理解を得られるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	少人数ではあるが、運営推進会議にて施設の状況の報告や悩み事、困り事の相談をさせていただき、ご意見やアドバイスをいただいている。	運営推進会議は、書面報告が主であるが、事業所から利用者の暮らしぶりや活動報告のほか、地域の情報提供や意見、アドバイスを頂き、事業所運営やサービスに活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	施設管理者等が空き情報や待機状況、生活保護受給者の入居者様の状況など電話や出向いで報告や相談をしている。	行政の担当や地域包括支援センターとは密に連携を図り、事業所の取り組み状況を説明し、報告・相談や情報の共有等が行われている。また、コロナ検査キットの配布を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法事内の拘束虐待防止委員会に委員が参加し、それを基に研修等々を開催し、身体拘束について理解を深め意見交換をおこない、拘束虐待防止の実践に努めている。	身体拘束廃止委員会が定期的に行われている。その機会に拘束に関する学びの時間をもち、身体拘束の内容とその弊害を確認、言葉での拘束を含め、行動抑制をしないケアを実践されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	法事内の拘束虐待防止委員会に委員が参加し、それを基に研修等々を開催し、虐待防止について告知ポスター等の掲示や理解を深め意見交換をおこない、拘束虐待防止の実践に努めている。職員のストレスケアと認識の教育実践が課題である。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常自立支援事業については御本人様のADL等を考慮し研修等で学びを深め生かすように努め、成年後見人制度については後見人様との連携をし支援していくようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書の説明を詳しく丁寧に行い、ご利用者様やご家族様の疑問や不安な点をお聞きし、きちんと話し合い、ご納得いただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話連絡、施設便りなどでご家族様に近況報告などをし、アンケート等も実施。ケアプラン更新の際に記入いただいた要望について反映実践出来るよう行っています。	利用者とは日々の関わりの中でコミュニケーションを深め、家族とは来訪が制限される中、面会や電話連絡時に意見・要望を聴き取り、職員間で話し合い、事業所運営やサービスに活かされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議や代表者を交えリモート会議にて職員が発言できる機会を設けています。	全体会議やフロア会議で意見・提案の聴き取りをされたり、各種委員会が組織され、発言し易い環境がつくられている。その中で、外出企画や個別ケア対策など、具現化されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者を交えリモート会議にて施設管理者だけでの評価だけではなく意見を交え向上心を持って働ける環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	感染症拡大の中で外部での研修を受ける事は実施出来ていないが、各委員会での研修や技術アップに向けて技術検定に向けてトレーニングし技術検定に合格してもらいモチベーション、技術の向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	オレンジネットワークに参加し地域同業者との交流を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される方へのお宅を訪問、生活状況等を把握し入居後は実際の生活状況を観察しながら御本人様の要望や困っている事に耳を傾け、一つ一つ実現や改善をしながら関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居される方へのお宅を訪問、生活状況等を把握し入居後は実際の生活状況を観察しながら、御家族様等には、導入するサービス内容をしっかり説明し御家族様等のご意見や要望に耳を傾け導入後の御家族様等へ様子をお伝えしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームの役割を説明すると共に、他のサービスの紹介も含めて行い、本人にとって本当に必要なサービスや支援を選択していただけるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御本人様の出来る事例例えば食器を拭いたり、テーブルを綺麗にして頂く、身体的に難しい方にはお知恵を拝借するなど、一緒に生活をする事への役割を持って頂く事で意識やADLを維持し家族のような関係性を目指している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様には状況を丁寧にお伝えしている。ご家族様にしか出来ない役割というものを理解し協力できる関係を築けるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染症拡大の影響もあり、限定的ではあるが友人や知人の面会、電話や手紙のやり取りや数的には対応出来ていないが市内近隣の場所へ外出する等の支援を行っている。	コロナ禍の中、限定されるが、友人・知人の面会、電話や手紙のやり取りほか、神社や公園に出かけられるなど、これまで大切にしてきた関係が途切れないよう支援をされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	御利用者様同士がお話し出来るよう、塗り絵等の創作活動や生まれた年等の時代背景をきっかけに職員が間に入ることで会話ができよい関係が続くよう支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	御利用者様やご家族様の立場に立つよう心がけている。幸いな事に退去をされた御家族様がイベントに参加の為来所下さっている、事例もあります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所に至るまでの背景や介護の経過を基に日常の会話から意見を聞き取り、生活状況を加味し周囲との摩擦が起こらないよう検討し行える努力をしている。	利用者一人ひとりとのコミュニケーションと信頼関係を大切に、声かけを行うことで、思いや意向を把握している。把握の難しい利用者についても、表情や仕草から汲み取るほか、職員間で話し合い、利用者本位に検討をされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所に至るまでの情報を基に、職員や他利用者様との会話の中から情報を得て、実際の御本人様の状況加味しサービスの経過把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日中や夜間の様子、状態・状況の変化を業務記録や申し送りノート等のツールを活用し口頭にての情報共有し現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人様の現在の状況を把握し、御本人様の要望や御家族様の意見を基に、現場介護士、看護師や医師との情報交換にて計画変更が必要であればモニタリングし計画変更を実施している。	利用者・家族から思いや意向を聞き取り、医師・看護師からの指示を含め、全職員の意見やアイデアを活かし、その人らしさを大切に、いつまでも元気に過ごされるよう、きめ細かな介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の詳細記入については至らない所もあり、職員間での口頭での申し送りや申し送りノートを活用して情報共有し看護師などの意見を交えながら実践や計画の見直しに努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別ケアを行うにあたり、一人ひとりに合ったサービスの提供を心掛け、柔軟性を持って希望に沿ったサービスの提供に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染症禍で地域との交流は不十分であるが、地元氏神様へのお参りや小規模の花見の外出支援を行い、皆様の要望に添って地元の飲食店を活用し食の喜びやイベント等で楽しむ事が出来るよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医の連携にて過半数であるが、元々のかかりつけ医を希望される方は、ご家族と職員が連携して受診の対応をしています。	利用者や家族の希望を尊重し、医療機関の選択をしていただいている。専門医等かかりつけ医の受診は家族対応を基本としているが、必要な情報提供を行ない、適切な診療が受けられるよう支援をされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常駐の看護師配置ではないが、体調の変化や些細な表情などの変化などを見逃さないよう努め早期発見、報告をし看護師の指示により、受診対応が必要であれば受診対応を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には医療機関に情報提供を行い、入院機関と連絡を取り合い情報交換をするように努め、入退院の際の説明には介護職員等も同席している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の看取りや延命方針については丁寧に説明し、方針に寄り添って、ご本人様、ご家族様の意志を尊重しゆったりとした生活をして頂けるように様にユニット内で共有し取り組んでいる。	利用者の症状に合わせ、重度化・終末期についての話し合いが持たれ、利用者・家族と意思統一を図られている。その後も意思の確認を進めながら、医師・看護師と連携のもと、重度化や看取り支援に取り組まれている。	重度化や終末期対策においては医療体制及び介護体制は十分に構築されています。今期一部の職員の異動もあったことから、職員の介護支援技術向上に向けた取り組みに期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成し初期対応や連絡方法等を内部研修で行い落ち着いて対応出来るように取り組んでいる。応急手当の実践力を身につける事が課題である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時のマニュアルを作成し地震や洪水などのハザードマップの活用もしている。年2回の避難訓練・年1回の水害対策の防災訓練を実施しているが災害に対する危機意識、落ち着いて対処出来るよう意識して取り組んでもらえるように取り組んでいく。	年3回の定期訓練では日中・夜間の火災発生を想定し、初期消火、通報、避難誘導訓練に取り組まれている。また、水害時対策としての避難対処方法に取り組まれるなど、体制整備に努められている。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	内部研修にて個人の尊重について研修をおこなっていて、声掛けも強い口調にならない様にお一人お一人に合った対応で尊重して対応に心がけているが不十分な所もある。排泄時など他利用者様が気にされない様努めている。	トイレでの介助時や更衣の際には、他の利用者には気付かれないようドアを閉じるなど、利用者の人格を尊重した対応、排泄や入浴時の羞恥心やプライバシーへの配慮など、きめ細かな対応がとられている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	御利用者様にまずは要望、希望を伺い自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員本位なケアにならないよう心がけているが、希望に添わず、都合で動いてしまっている時もあった。御本人様のペースで過ごせるよう心に余裕を持ってケアを出来る仕組みづくりが出来るように努めたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	常に身だしなみには気をつけて対応しているが御本人様に選択を十分に取り入れていない所もみられるので改善が必要。訪問理美容にての対応を実施している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	御本人様の嗜好や状態を把握しイベントや誕生日会などは要望を取り入れ提供しています。尚、御本様が可能な限り一緒に食事の片付けを行っていただいています。	食材調達から調理を全て職員が行い、美味しい家庭料理が提供されている。また、土用丑の日には鰻重、誕生会には好きな牛丼やスイーツが提供されるなど、食の楽しみを大切に支援に取り組まれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日常の食事については管理栄養士が作成したメニューによりバランスを考慮し一人一人に合った食事形態や量等を工夫し、水分補給に関しては十分に水分摂取出来るよう工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを実施し訪問歯科と連携し歯科衛生士の口腔ケアを週1回・歯科往診を月一回実施口腔内の衛生などを行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自尊心に配慮した上で、個々の身体機能や排泄パターンの観察をし失禁を減らすよう努めているが、定時排泄のパターンの様子もみられるので改善し自立に向けた支援に向かって取り組んでいきたい。	トイレでの排泄を基本とし、利用者一人ひとりの力や排泄パターン・習慣を把握して、適宜、声かけを行なうほか、利用者個々に事前誘導を心掛けるなど、きめ細かなケアをされ、負担軽減と自立にむけた支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の把握に努めつつ、必要に応じて内服薬の調整をしています。 また不定期ですが週に数回ヨーグルトの提供もしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に2～3回程、希望を聞きながらの入浴を提供が出来ていず業務都合で入浴を決めてしまっている事があるので、業務改善を図り希望に合わせて入浴出来るよう支援していきたい。入浴内容は個々に添った支援をしています。	利用者の状況や希望に応じて柔軟に対応されている。利用者の状況から一部職員複数での対応になるが、すべての利用者に湯船に浸かって貰うよう支援をされている。また、季節湯や芳香入浴剤などで、入浴を楽しまれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の安眠が出来るように日中の活動を勧め、日中御本人様の希望や状態等により1時間程度の休息をとれるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに最新の薬事書と近々の薬事書を入れ、いつでも確認出来るようにし、誤薬のないよう努め内服後の変化等の観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干しや食器拭きなど個々に出来ることを活かし役割を持っていただくよう支援しています。塗り絵や読書やスポーツ観戦等個々に合わせて楽しめるよう支援に努めています。張り合いのあるアクティビティ活動の取り入れが課題である。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染症禍で回数的や希望に外出の対応はしきれないが、施設周りや散歩の支援、また、ご家族様と受診へ出かけた際に外食や買い物を楽しまれている方もいます。	現状、外出は自肅の為、事業所周辺での散歩、玄関前や庭での外気浴を楽しまれているほか、個別外出になるが、季節のお花見や道の駅へのドライブを楽しまれるなど、外出の機会を持ち、気分転換とストレス発散を図られるよう支援をされている。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはお小遣い程度の金額を施設で預かり管理しているが、希望があればいつでも利用出来るようにしており、自己管理可能な方については少額ですがメモなどで書いてお金を管理しています。但し感染症渦なので買い物については職員が代行しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々の希望に応じて対応するよう努めています。御家族様からの電話にての会話や職員がかけて御家族様と会話出来るようにし、御家族様からの手紙をお渡し相互ではないがやり取りを支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	湿度や温度等の調整をし、出来る限り季節感を演出し、安心して落ち着けるような生活感の感じられる空間作りに努めています。	リビングルームはクリスマス飾りや創作花飾りが飾られ、利用者が季節を感じながら、気持ち良く過ごせるよう工夫をされている。また、キッチン併設により、調理の音や匂いなど、生活感が感じられる備えとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	孤立しがちな入居者様に対しては職員が自然な関りが出来るよう配慮し、また気の合う同士が会話など楽しめる過ごしやすい空間作りにも努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御本人様が使用していた思い出の品や使い慣れた家具や仏壇などお持ちいただいたおり、自宅に近い環境整備に努めています。誕生日会やイベントの写真等で空間を明るくし時間の共有を出来る様に支援しています。	馴染みの寝具や筆筒、家族の写真や仏壇などが持ち込まれ、居心地良く、落ち着いて過ごされるよう工夫をされている。また、共用スペースを含め、毎朝、掃除・換気・消毒を行うなど、清潔維持と感染症対策に取り組まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入口に表札を付けさせていただき、ご自分のお部屋である事を分かりやすいよう工夫をしています。		

(別紙4(2))

事業所名: ソレアド幸手

作成日: 令和6年2月28日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくなるよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	近隣や他施設との付き合いが希薄	同業他施設や近隣住民の人と交流を持つ	・近隣の小中学校のイベント(運動会等)に参加する ・近隣の小中学校の校外学習、高校のインターンシップ受け入れの再開 ・認知症カフェへ参加する ・ボランティア(ハンドマッサージ)の受け入れと実施	12ヶ月
2	10	面会が未だ再開出来ていない	面会の再開	・ドア越しの面会ではなく、居室やスタッフルームでの面会を再開出来る様にする	6ヶ月
3	49	日常的な外出が出来ていない	定期的な外出とその支援を再開する	・買い物の支援を再開する ・外食、趣味(映画、将棋等)を再開する	6ヶ月
4	45	入浴を楽しむための個別の支援を再開する	個人の希望に合わせた入浴方法を行う	・銭湯での入浴を再開する	6ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。